



滝野すずらん丘陵公園

管理運営プログラム

—令和7年度までの管理運営方針—



令和3年6月

国土交通省 北海道開発局

1. 全体計画及び開園状況

(1) 全体計画

滝野すずらん丘陵公園（以下、滝野公園）は、道央圏を中心とする広域的なレクリエーション需要に対応するために設置された国営公園です。滝野公園は昭和 53 年から公園整備に着手し、昭和 58 年 7 月に溪流ゾーンの一部を供用開始して以来、順次供用区域を拡げ、平成 22 年度に計画面積 395.7ha の全園の供用を開始しました。

滝野公園は、札幌市の中心部(札幌駅)から約 20km の札幌市南区滝野地区に位置し、車で約 30 分の距離にあります。この周辺には、札幌芸術の森、札幌ふれあいの森などがあり、札幌市南部のレクリエーションエリアを形成しています。

国営公園としては、日本最北に位置し、北海道で初めて通年利用が可能な公園として、グリーンシーズン(夏)、ホワイトシーズン(冬)を通じ、約 60 万人/年が来園しています。

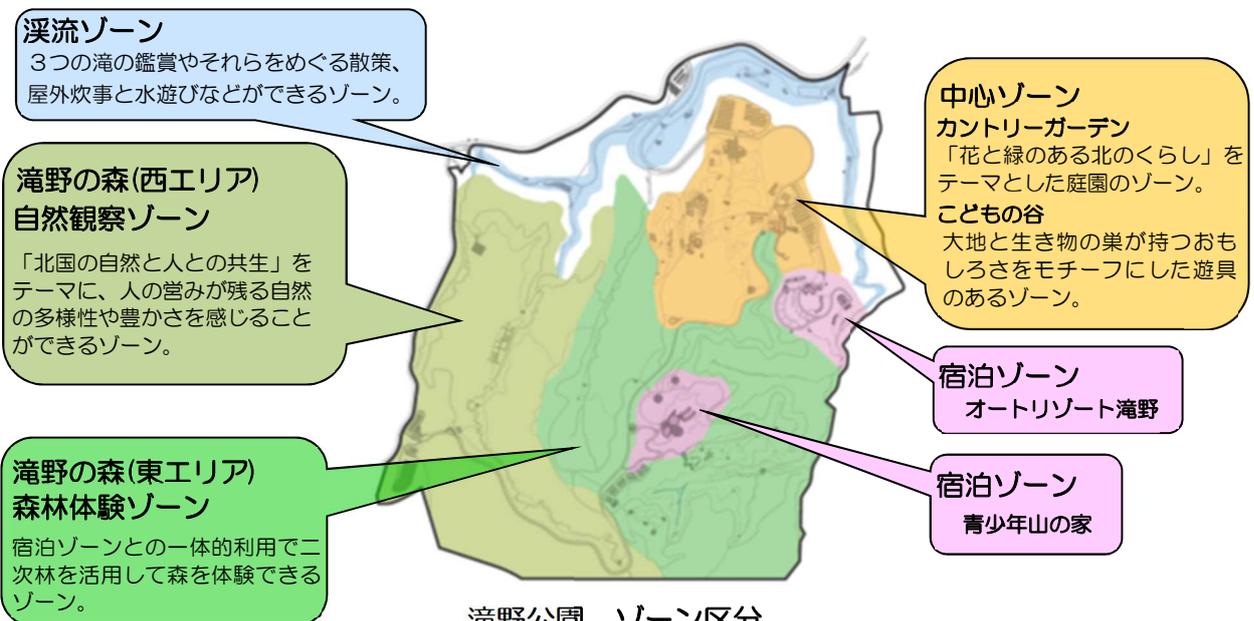


(2) 公園整備の経緯

昭和 52 年度	都市計画決定
昭和 53 年度	都市公園を設置すべき区域の告示
昭和 54 年度	都市計画事業承認・事業着手
昭和 58 年度	「溪流ゾーン」の一部供用開始（供用面積 30ha）
昭和 60 年度	「歩くスキーコース」「そり遊び広場」など冬季利用開始（供用面積計 92ha）
平成 元 年度	「青少年山の家」の供用開始（供用面積計 110ha）
平成 6 年度	「オートリゾート滝野」の供用開始（供用面積計 130ha）
平成 11 年度	「ファミリーグレンデ」の供用開始（供用面積計 154ha）
平成 12 年度	「中心ゾーン」カントリーガーデン、こどもの谷の一部供用開始（供用面積計 182ha）
平成 14 年度	「中心ゾーン」こどもの谷の全部供用開始（供用面積計 186.4ha）
平成 16 年度	「森のすみか」供用開始（供用面積計 192.3ha）
平成 21 年度	「滝野の森ゾーン」の一部供用開始（供用面積計 313.8ha）
平成 22 年度	「滝野の森ゾーン」の全部供用開始（5月22日全園開園、供用面積計 395.7ha）



滝野公園 全体図



滝野公園 ゾーン区分

(3) 主な供用施設

■ 溪流ゾーン

厚別川に沿って広がるゾーンです。日本の滝百選に選ばれている「アシリベツの滝」を含む3つの滝を巡ったり、川遊びをしたり、緑の中で一日中楽しむ事ができます。サイクリングやバーベキューなど、魅力あるアクティビティを提供しています。

炊事広場（バーベキュー等）



園内で一番広い炊事コーナーです。四阿が6棟あり、約1000人が同時に利用できます。

アシリベツの滝



公園の北西端にあるアシリベツの滝は、高さ26mあり、札幌市内でも最大級の滝で「日本の滝百選」に選ばれています。

■ 中心ゾーン

季節に応じた多様な花々、冒険心をくすぐる遊具などがあり、子供から大人まで楽しめるゾーンです。丘一面に広がる花畑など風景の異なる11の花園があるカントリーガーデンでは見頃の花を紹介するガイドツアーを随時提供しています。

カントリーガーデン



『花と緑のある北の暮らし』をテーマに、北海道を代表する牧歌的でおおらかな田園風景（カントリー）を表現した庭園です。草花の彩り、小川のせせらぎ、小鳥のさえずりを楽しむことができます。

オレンジエッグ



大きくうねった大地をイメージしたオレンジ色のふわふわクッションの遊具です。

虹の巣ドーム（屋内型）



虹色のネットがはりめぐらされた不思議な巣。ぶらさがったりくぐりぬけたり、子どもが夢中で遊べる空間。一番上まで登ることができるのは子どもだけという特別な場所です。

■ 滝野の森（東エリア）森林体験ゾーン

バリアフリー園路やベンチが整備され、森歩きに慣れていない人や子供も森の散策を楽しむことができます。また、環境学習の拠点となる「森の交流館」「森見の塔」「森の教室」がある、ゾーンです。

森の交流館



滝野の森東エリアの利用案内・開花情報等を発信する、中心拠点施設です。隣接するツリーハウスには、子どものプレイスペースや休憩スペースがあります。

森見の塔



滝野の森のシンボルとなる高さ20mの展望台です。360度見渡せ、札幌近郊の山並みも一望できます。

森の教室



森と水辺に囲まれたオシャレな休憩所です。水辺で生きものを探したり、川のせせらぎを聞いたりしながらのんびり過ごすことができます。

■ 滝野の森（西エリア）自然観察ゾーン

森の情報館を拠点に、自然の森の中で自生する山野草や野生の生き物等の観察、復元した田んぼでの農作業体験などを通して、自然と人の関わりを学ぶガイドツアーを随時提供しています。

森の情報館



滝野の森ゾーンの案内や各種イベントの拠点となる施設です。北国の豊かな自然の生態や、人の暮らしと自然の関わりについて紹介する展示コーナーのほか、レクチャールームや工作室などもあります。

森の観察デッキ



谷間の木々の梢の間を抜け、蛇行する野牛沢川を上から眺めることのできる高さ5mのデッキ。森の情報館からこのデッキまではバリアフリーに対応しています。

田んぼの広場



この広場は、かつて農家が建っていた跡地です。再整備した田んぼや湿地などに面した広場です。大きなエゾマツが目印です。

■ 宿泊ゾーン

2つの宿泊施設があるゾーンです。青少年山の家は、団体での野外活動に関する研修の場として主に小中学校や企業に利用されています。オートリゾート滝野は、オートキャンプ場としてキャビンからフリーテントまで多彩なサイトがあり、ファミリー層の利用が多く、近年は外国人利用客が増加しています。

青少年山の家



青少年が自然に親しみ、自然の中で集団宿泊生活、野外活動等を通じて青少年の育成を図ることを目的として、平成元年9月に札幌市が設置した野外教育施設です。

オートリゾート滝野



オートリゾート滝野は、平成6年に全国の国営公園で初めてのオートキャンプ場として開業し、日本オートキャンプ協会から、最高位の五つ星の認定を受けているオートキャンプ場です。

(4) 滝野公園の基本方針

滝野公園では、以下の方針のもと、行政機関（国・道・市）、警察、消防、学識経験者、ボランティア、市民団体、NPO、企業、運営維持管理業務受託者などと連携・協働し、北海道における先導的・広域的な役割を担う公園として、サービス水準や利用者満足度等の向上を目指し、管理運営を進めています。

【基本テーマ】

「自然と人・人と人のふれあい」

【基本理念】

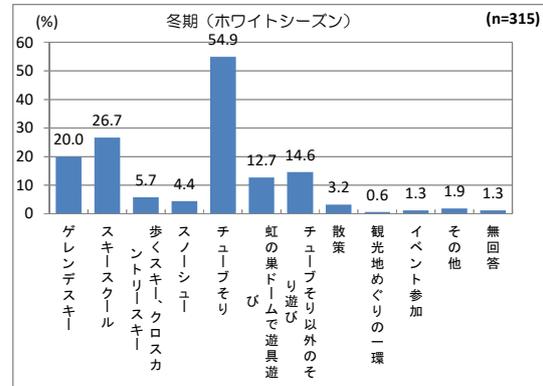
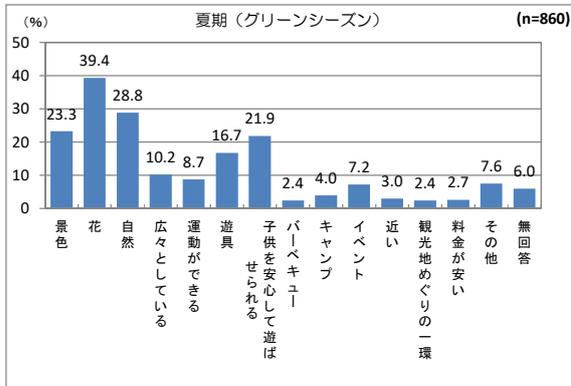
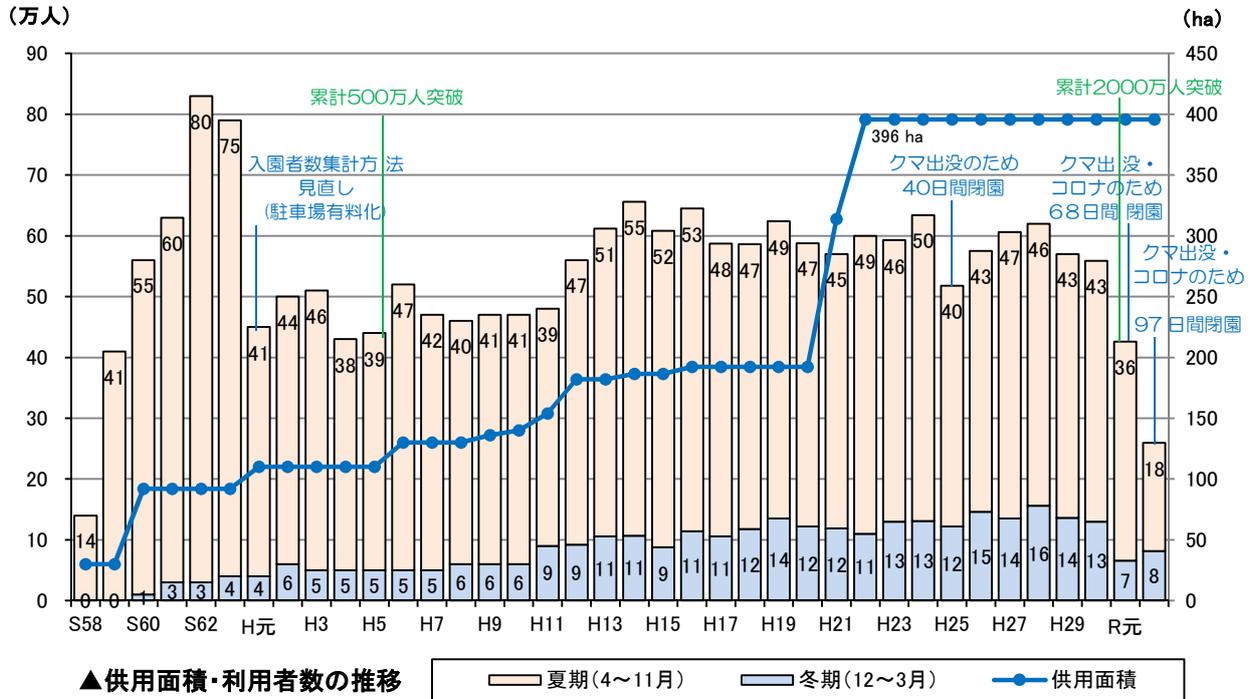
- ① 自然環境の保全・活用
- ② 安全・安心で魅力ある空間づくり
- ③ 多様なニーズに対応

【基本方針】

- ① 自生植物や貴重な自然資源の保全・活用
- ② 草花を活かした彩り豊かな美しい景観の形成
- ③ 良好な環境の形成
- ④ リスク低減対策など危機管理の強化による安全・安心な公園の創出
- ⑤ 人づくりへの貢献
- ⑥ 多様な利用機会の提供と積極的な情報の受発信
- ⑦ インバウンドへの貢献
- ⑧ インフラストックの活用
- ⑨ メンテナンスサイクルの構築
- ⑩ トータルコストの縮減
- ⑪ バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進

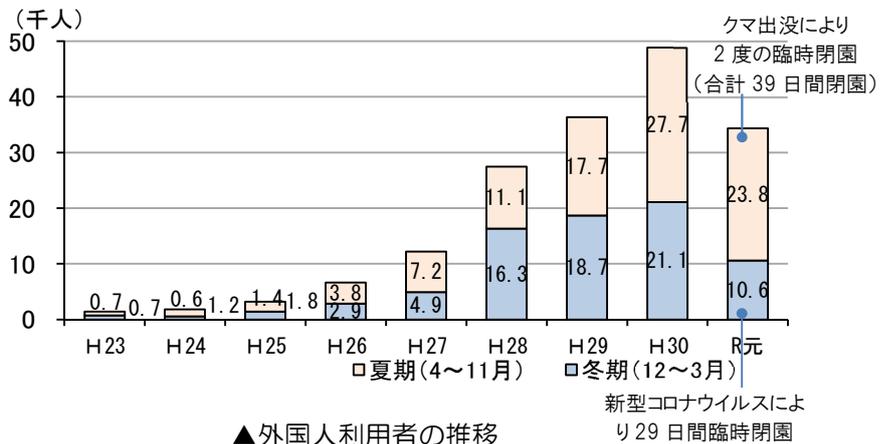
(5) 入園者数の推移

昭和58年の開園から令和元年度までに、累計で2,000万人を超える人が訪れています。利用実態調査によると、夏期は主に「花」「自然」「景色」、冬期は主に「チューブそり」「グレンデスキー」「スキースクール」を目的に来園されています。



▲ 来園の目的・決め手 (R1 (H31) 利用実態調査より)

外国人の利用状況は近年増加傾向にあり、特に平成30年度が約5万人(来園者の約1割)に達しています。

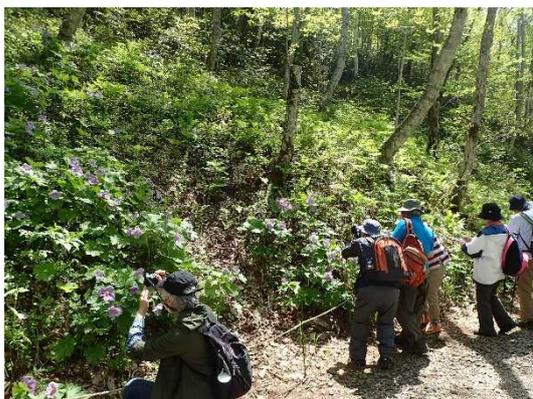


(6) 滝野公園のストック効果

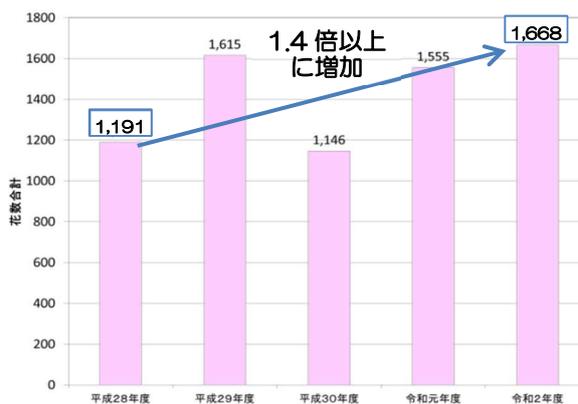
滝野公園は、地域に根ざした都市公園として、適時適切に運営維持管理を実施することで、以下の多様なストック効果を発揮しています。

① 自然環境保全効果

滝野の森ゾーンの西エリアでは、貴重な自然資源（自生植物であるシラネアオイ等の希少種）の生育環境の保全・育成に取り組んでいます。シラネアオイの開花数は、4年間で1.4倍以上に増加しています。また、ホタルやエゾサンショウウオの生息環境の保全活動にも取り組んでいます。



▲シラネアオイを楽しむ公園利用者



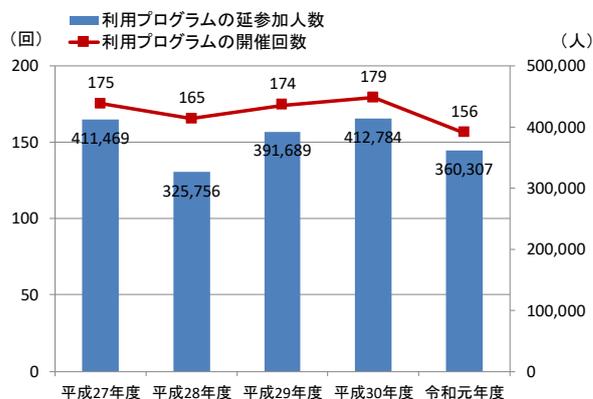
▲シラネアオイの開花数の推移

② 健康・レクリエーション空間提供効果

自然とのふれあいや、「ノルディックウォーキング」「森ヨガ」等の屋外レクリエーション、野外ライブ、余暇活動の場としての空間を提供しており、子どもから高齢者まで幅広い世代の心身のリフレッシュや健康増進に貢献しています。

また、自然の中で動植物や雪とふれあえる場、多様な遊具や公園を訪れる人同士がふれあえる場の提供などを通して、子どもの健全な心身の発育発達に寄与しています。

「滝野スキースクール」や「森フェス」といった講習会や体験等の利用プログラムは、年間を通じて平均で約170回実施しており、平均で約38万人が参加しています。



▲プログラムの実施数、参加者数の推移



▲自然とのふれあい
(森の生きもの調査隊)



▲屋外レクリエーション
(ノルディックウォーキング)



▲雪とのふれあい
(冒険遊び場きのたんの森)

③ コミュニティ形成効果

地域住民等による「花ガイド」(活動名：フラワーガイドボランティア)や「森林ガイド」(活動名：滝野の森クラブ)等の活動を通して、地域コミュニティの創出や構成員の約7割を占める高齢者の生きがいづくりにも貢献しています。



▲フラワーガイドボランティア



▲滝野の森クラブ

▼ボランティアの登録者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
花ガイド	31名	34名	33名	30名
森林ガイド	48名	46名	41名	54名

④ 観光振興効果

札幌市のシンボルの花となっているスズランのほか、チューリップなど季節に応じた草花の組み合わせ及び丘陵地を活かした「美しい大規模な花の風景」、日本の滝百選にも選定されている「アシリバツの滝をはじめとした3つの滝」は、地域固有の景観形成に寄与し、地域を代表する観光資源の1つになっています。

また、冬のアクティビティの提供、スノーフェスティバルや北海道キャンピングフェア等の多様な行催事の実施等により、多い年には約60万人の公園利用者が訪れており、札幌市内の主な観光施設の中でも上位となっています。こうした観光の一大拠点となることによって、物販・飲食・宿泊等観光消費の拡大や、他の観光関連施設への波及効果等、地域の観光振興に貢献しています。

▼札幌市内の主な観光施設の入場者数ランキング (千人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
1位	円山動物園(791)	藻岩山(906)	円山動物園 (1,010)	円山動物園 (1,021)
2位	藻岩山(774)	円山動物園(813)	藻岩山 (867)	モエレ沼公園 (879)
3位	モエレ沼公園(701)	モエレ沼公園(805)	モエレ沼公園 (706)	藻岩山 (808)
4位	サッポロさとらんど(696)	白い恋人パーク(749)	北海道庁旧本庁舎 (696)	札幌芸術の森 (608)
5位	白い恋人パーク(665)	北海道庁旧本庁舎(690)	サッポロさとらんど (577)	サッポロさとらんど (593)
6位	北海道庁旧本庁舎(650)	サッポロさとらんど(682)	滝野すずらん丘陵公園 (560)	白い恋人パーク (513)
7位	滝野すずらん丘陵公園(592)	滝野すずらん丘陵公園(571)	サッポロビール博物館 (491)	羊ヶ丘展望台 (479)
8位	札幌芸術の森(502)	北海道立近代美術館(453)	白い恋人パーク (462)	滝野すずらん丘陵公園 (427)
9位	羊ヶ丘展望台(426)	大倉山ジャンプ競技場(447)	羊ヶ丘展望台 (428)	サッポロビール博物館 (419)
10位	大倉山ジャンプ競技場(421)	札幌芸術の森(433)	大倉山ジャンプ競技場 (402)	北海道庁旧本庁舎 (413)

出典：令和2年度版札幌の観光(札幌市)



▲丘陵地を活かした大規模花修景



▲アシリバツの滝



▲冬のアクティビティ(滝野スノーワールド)

2. 令和7年度までの管理運営の方針等

(1) 今後5年間の管理運営の重点事項

滝野公園は、「自然と人・人と人のふれあい」を基本テーマとし、多様なニーズに対応して四季を通じた利用促進を図るため、花フェスタ（チューリップ・すずらん等）、滝野スノーフェスティバル、森の中で音楽やソリ遊びを楽しむ森フェス等の様々な野外レクリエーション活動を展開しています。また、外国人観光客にも快適・円滑に公園を楽しんでいただけるよう、受入環境整備を推進しています。

そのような中、滝野公園では、開園から37年が経過し、園内施設の老朽化が進み、特に開園初期に設置した建築物や遊具の損傷・劣化等が顕著になっています。また、胆振東部地震や台風等の影響により、斜面崩壊や倒木等の自然災害が発生しています。最近では園内にヒグマが2年連続で侵入し、令和元年度は39日間、令和2年度は58日間の閉園となるなど、公園利用に大きく影響しています。一方、近年の外国人利用者の急増に対応するため、多言語案内表示やトイレの改善など更なる環境整備が課題となっています。

このような状況下で、公園の安全性と魅力の更なる向上、利用者の満足度の更なる向上を図るため、令和7年度までの重点事項を以下のように決めました。

○既存ストックの活用による誘客促進

- ・令和2年度に更新した長寿命化計画に基づき、公園の魅力や安全性・防災性の向上を図るため、北海道の厳しい自然環境に対応できるように、施設や遊具等の計画的な修繕・更新を実施するとともに、更なる魅力向上を図れるように、老朽化等のため利用停止中の施設の利用再開等を推進し、公園施設のストックを有効活用します。
- ・滝野公園を代表するシラネアオイを中心とした自生植物や貴重な自然資源（希少種）の適切な管理、また季節に応じた草花等の大規模花修景や公園のシンボルであるスズランなどの草花の演出、花見ごろを意識した植栽管理により、滝野公園の魅力を知ってもらうための取組や魅力発信を継続します。
- ・札幌都市圏の観光資源や地域住民、地元団体、企業等と連携を図りながら、地域の経済や観光振興、訪日外国人観光客の誘客に貢献できる公園を目指します。

○ヒグマ侵入防止対策

- ・近年、園内へのヒグマの出没が多発する状況について、AIやドローン等のICT技術を活用した、新たなヒグマの監視・侵入防止対策を進め、公園利用者が安心して園内を利用できる公園運営を目指します。

○民間事業者との連携を強めた質の高いサービスの提供

- ・民間事業者に対して、滝野公園活用への積極的な参画の機会を提供し、公園の広大な敷地を活用した大型イベント等の誘致を更に進めます。また、公園利用者への利便性を更に高めるため、新たな魅力ある飲食物販施設等によるサービスを充実します。

(2) 管理運営方針

① 来園者の安全安心の確保

- 日頃より災害予防を意識して、のり面や構造物等の日常点検を実施します。
- 災害発生時に備え、「災害対策部運営計画」に基づき、行政機関（国・道・市）、警察、消防、運営維持管理業務受託者等の関係者と横断的かつ組織全体的な緊急情報連絡体制を構築します。
- 防災訓練等を通じ、来園者の立場に立った防災・リスク低減対策を継続的に進めます。
- 災害発生後、迅速な応急復旧体制を確立するため、建設業界との連携強化を図ります。



▲構造物点検状況

② 効率的な管理運営

- 長寿命化計画に基づく施設の予防保全型管理により、ライフサイクルコストを削減します。
- 利用実態に応じた施設の集約、既製品や耐久性の高い素材の活用などで維持修繕費の縮減を図りながら、利用者ニーズの高い施設・エリアに集中投資することで、利用促進と魅力の維持・向上を効率的に図ります。



▲公園施設の維持修繕（木製階段）

③ 地域協働や関連施設等と連携した公園運営・人材育成

- 「フラワーガイドボランティア」や「滝野の森クラブボランティア」をはじめとする公園の管理運営に関わるボランティア活動への地域住民の参加を促進し、更なるコミュニティ形成を図ります。
- 地元アーティストやNPO等との各種イベント共催、地元商店街連合会と連携した地場製品の企画立案・PR、園内清掃等のCSR活動など、地域や企業とのパートナーシップを構築し、公園の管理運営を通じた人づくりへの貢献を目指します。
- 札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート及び令和2年7月にオープンしたウボポイ等の他施設との相互誘客に取り組み、包括的な観光客の誘致を図ります。



▲企業のCSR活動（園内の除草）



▲民族共生象徴空間（ウボポイ）

④ 積極的な公園の魅力配信

- ・国内外からの広域的な集客を図るため、滝野公園が有する自生植物や貴重な自然資源、歴史的・文化的資源に関する情報や、札幌都市圏の観光情報など、SNS やホームページ等を活用した積極的な情報受発信、動画配信を行います。
- ・公共機関や地元メディア、外国人観光案内所、道の駅等において、外国人向けの観光ガイドの配信を行うとともに、園内の多言語の案内標識の増設、大型化による視認性向上、外国語に堪能な園内スタッフを配置するなど外国人の利用促進に努めます。



▲通訳士による案内状況

⑤ 民間活力導入等による公園資源の新たな活用

- ・コンビニや飲食物販施設等の利用者ニーズの高い施設について、民間企業の新規参入の検討を進めます。
- ・コロナ禍において滝野公園の広大な敷地を活用したソーシャルディスタンスを確保できる大型イベント誘致を進め、公園資源の新たな活用方法の可能性について、検討を進めます。



▲ソーシャルディスタンスを確保した大型イベント(ドライブイン花火)

⑥ 新技術の活用

- ・ヒグマの監視・侵入防止対策について、新たに AI やドローン等の ICT 技術を活用することで、迅速かつ効果的な対応を推進します。
- ・一般 WEB 地図サービスを活用して園内施設の位置情報や施設名、写真を登録することにより、現在地から園内施設までのナビゲーションに加え、開催イベントの紹介、花の見頃見所や遊具の遊び方等、各施設の情報を事前に提供し、訪日外国人観光客を含むすべての利用者の利便性向上を図ります。



▲園内に侵入したヒグマの監視画像

⑦ 自生植物や貴重な自然資源の保全

- ・滝野の森に残るシラネアオイ等の自生植物や貴重な自然資源(希少種)の保全を図ります。
- ・特に、滝野の森ゾーン(西エリア)において、近年増殖傾向にある外来植物の駆除や林地の下草刈り等を行い、希少植物の生育環境の計画的保全を行うとともに、動植物の生息・生育環境の順応的管理等を適切に行い、個体数の維持、生息地の保全を図ります。



▲アシリバツの滝と紅葉

⑧ 多様な動植物との共存と安全管理

- ・園内で見られる多様な動植物の写真・映像を SNS や HP 等で配信し、滝野公園の豊かな自然の魅力をアピールします。また、ヒグマが侵入した場合の監視体制や再侵入防止策を紹介し、開園後安全に利用できることの周知を図ります。



(エソフクロウ)

(クマゲラ)

▲多様な動植物

⑨ 環境負荷の低減

- 太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用、LED照明等の省エネ設備導入により、環境負荷の低減を進めます。
- 公園から排出される刈草の堆肥化、チップ化によるリサイクルを継続します。



▲伐採木のリサイクルによるウッドチップ舗装

⑩ 滝野の自然を活かした多様な利用プログラムの提供

- グリーンシーズンには、園内に生息する生き物や自生植物に関する学習会、ノルディックウォーキングや森ヨガ、野外音楽ステージ等、ホワイトシーズンにはスキーやそり滑り、歩くスキーやスノーシュー等、多くの利用者が参加・体験・交流できる利用プログラムの提供を図り、環境教育や健康維持増進などに取組みます。
- 訪日外国人観光客が多くなるホワイトシーズンを中心に、外国人向けサービスを提供します。
- コロナ禍においても楽しむことのできる利用プログラムを充実します。

▼スノーシューガイドツアー



▲野外音楽ステージの開催

⑪ バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進

- 子供・高齢者・障害者・外国人も、安全・安心で快適に利用できるように、当該利用者のご意見を踏まえバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を推進します。
- 特に外国人対応として、園内サインへのピクトグラムの追加や多言語の案内標識の増設・大型化、多目的トイレの機能、外国語による案内放送を充実させます。また、外国語に堪能な園内スタッフの配置等を更に推進します。

▼多言語の案内標識の大型化



▲車椅子利用者の目線に配慮した植栽展示

⑫ 彩り豊かな美しい花の景観の形成

- チューリップやコスモスなど季節に応じた草花等の大規模花修景や公園のシンボルとなるスズランなど、四季折々の草花を展開します。
- 草花の見頃時期を考慮した植栽配置を行い、各時期で異なる花の景観を提供することで、リピーターを確保します。



▲彩り豊かな花修景

(3) 事業効果（今後5年間の管理運営によってもたらされる効果）

今後5年間、管理運営方針に基づいた施策を進めることにより、以下のような事業効果の発揮が期待でき、本公園のストック効果が強化されます。

① 安心・安全な公園の利用を確保します。

- ・日頃より施設の点検・補修等を適切に行い、公園利用者が安全に安心して利用できる公園機能を維持します。また、公園施設・遊具等の維持管理・更新等を適切に行い、安全性を確保するとともに、利用停止中の施設を解消します。
- ・ICT技術の活用によるヒグマの侵入防止対策や、侵入した際の情報を迅速かつ的確に把握・提供することで、公園利用者の更なる安全・安心を図ります。
- ・バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進により、外国人を含むすべての利用者が快適に利用できる公園環境を創出します。

② 地域活性化や外国人観光客の集客に貢献します。

- ・地元団体や地域の方々、ウポポイ等の観光資源と連携し、公園管理を通じた人づくりや観光客誘致に貢献します。
- ・SNS等を活用した公園の魅力発信や外国語対応の各種施設の充実により、訪日外国人観光客の更なる集客を進めます。

③ 滝野公園の豊かな自然環境を保全活用し、利用者の満足度向上を図ります。

- ・地球環境に配慮した公園管理を推進するとともに、滝野の森に残る自生植物や貴重な自然資源（希少種）の保全活動を進め、来園の動機づくりを醸成します。
- ・豊かな自然環境を活用した環境教育プログラムや各種イベント等を行うことで、環境教育や健康増進の場としての満足度向上が期待されます。
- ・リピーターを含むすべての利用者に喜ばれる植栽展示を展開することで、花に対する満足度の向上を図ります。

④ 民間活力導入の検討促進により、魅力ある利便性の向上を図ります。

- ・民間企業の参入や、コロナ禍における新たなイベント誘致等について検討を進めることで、公園一層の利便性と魅力向上につながります。

なお、本プログラムは、公園を巡る社会情勢の変化等に応じて適宜見直しを行っていきます。